

北信教育事務所だより

第4号

令和3年9月17日

～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

共に拓く

新しい時代を生きる子どもに必要な資質・能力を育成する学校を支援します

北信教育事務所学校教育課では、カリキュラム・マネジメントの3つの側面を踏まえて、子どもたちの資質・能力の育成を目指しています。新しい時代の教育の実現が求められている中で、従来の学校教育を更新させ、学習指導要領を着実に実施しながら「新たな時代を切り拓く学び」を【自律的な学び】【協働的な学び】【個別最適な学び】【探究的な学び】【社会に開かれた学び】と捉え、グランドデザイン（右図）に位置付けました。今回は1学期の学校訪問から、3つの学びについて各校の取組を紹介します。

～新たな時代を切り拓く学びの実現～



「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）におけるポイントを絞った【総論解説】はこちらからご覧いただくことができます。



シリーズ ～新たな時代を切り拓く学び～

自律的な学び

子どもたちの自己教育力を引き出し伸ばす プランニングタイム

高山小学校では、子どもたちの自己教育力の育成を目指して、「プランニングタイム」を試行しています。「プランニングタイム」は、週末に行う「自主学習」の計画を立てる時間です。この時間を通して、家庭学習の充実を図り、子どもたちの自律的な学びを促しています。

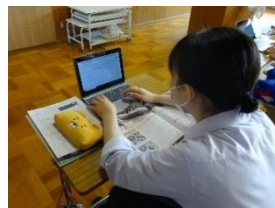
4年1組では、プランニングタイムの前半に、これまで取り組んできた各自の自主学習ノートを見合う活動が位置づけられました。担任の中澤先生が、「今日は、ほかの人が自主学習ノートにどのような学習をしているか見てみよう」と伝え、Aさんは、「ちょっとだけ気になってきた」とつぶやきました。友達のノートを見合った後、週末の自主学習の内容をプランニングシートに記入していきます。プランを立て終わった児童は、担任の中澤先生にプランの確認をしてもらうのですが、教室の所々から「先生、今日やっちゃだめでしょう？」「今日、やりたいんだけど！」「と」いった声が聞こえてきました。自分で計画を立てると、すぐに取り組みたくなるのでしょうか。岡田校長先生は、「自分で課題を見つけ計画を立てて楽しみながら勉強することを継続し、自己教育力を育成したい」とおっしゃっています。自分に必要な学習を自分で計画を立てて、自分で取り組むといった自律的に学んでいく姿につながる実践が高山小学校ではスタートしています。



自律的な 学び

問いの解決に向けて、主体的に学ぶ生徒の姿

墨坂中学校3学年の宮下先生の社会科の授業では、戦時下の人々の暮らしについて、各自が疑問に思ったことを追究していきました。Nさんは、「長野県や須坂市周辺にも疎開してきた人はいるか。また、どのくらいの人が疎開し、どんな生活をしていたか」という問いをたて、タブレット端末を使って調べました。



Nさんは、まず「疎開先 長野県」と検索し、長野県には多くの疎開児童が来ていたことが分かったと、さらに詳しく調べようと「疎開先 場所」、「疎開先 長野県内」と検索し、長野県は全国で2番目に多かったことや、県内の多くの温泉地で受け入れが行われ、宿泊施設によっては一般客よりも疎開児童の受け入れを優先していたことを捉えました。続いて「疎開先 生活」と検索し、戦時下は食料難で疎開児童は主に畑仕事に従事していた記事を見つけると、「疎開先 食事」と検索する中で、思っていた以上に食料難の中で子どもたちは食べる物がほとんどなかったことが分かりました。そこで、他にも苦しい状況があったのではないかと考え、再び「疎開先 生活」と検索し、病気になる子どもが多くいた資料も見付け、疎開児童の生活の実際に迫っていきました。振り返りでNさんは、「長野県への疎開が多くいて驚いた。思った以上に貧しい生活を強いられていた。」と記述しました。学童疎開への理解が進む中で生まれた新たな疑問を解決しようと調べていくことで、疎開先での子どもたちの生活は予想以上に大変なものであったことを捉え直し、学童疎開への理解を深めることができました。

この授業ではNさんのように、どの生徒も自分のたてた問いの解決に向けて、一人になって自分のやり方で調べる姿がありました。授業者の宮下先生が、問いをじっくり調べられる時間を確保したこと、子どもたちが関心を寄せ、戦時下の様子を深く捉えていく窓口として学童疎開を取り上げたことが、生徒の自律的な学びにつながっていました。

協働的な 学び

「What's this?から生まれたもの」

中条中学校2年1組の石津先生の授業では、外国語「A L T に中条の名所を紹介しよう」という単元で、自分で作成したスライドを使って「中条のよさがよりよく伝わるように」発表の練習を始めました。

Aさんは、中条の写真や地図を使って即興的に発表することは難しい様子でしたが、既習の表現 There is ～等を使い1回目の発表を終えることができました。その発表を聞いていたB



さんは、1枚の写真が気になりました。「What's this?」と聞くと、Aさんは「Look! Look!」と言って、その写真が載ったスライドを拡大します。「This is 竜… 竜って英語で何て言うんだっけ?」Bさんは「Dragon だよ!」と応じます。「そっか! Look! A dragon is here.」Aさんの新たな英文が、Bさんの質問から生まれた瞬間でした。

2人の言語活動は、教科担任が指示したものではなく、2人の「A L T に中条のよさを伝えたい」という願いから自然に生まれたものです。子ども1人ひとりのもっている力、異なる考え方等を組み合わせることで、よりよい学びを生み出していく「協働的」に学ぶ姿勢につながることが分かりました。

探究的な 学び

子どもの「どうして？」でスタートする 総合的な学習の時間

長野市立三本柳小学校 4 年生の子どもたちは、学校周辺を探索し、気付いたことを地図にまとめる活動に取り組みました。住宅と住宅の狭間にある畑を見て、「この辺って昔は畑だったんだろうなあ」と、かつての町並みがどんな様子だったのか気になっている姿が見られました。

この姿に気付いた担任の島田先生は、「子どもの中に『問い』が生まれたら、もっと夢中になってこの町を知ろうとするだろう」と考えました。子どもたちが楽しみながら地図をまとめている姿を見て、「昔の地図と比べる活動を取り入れたら、子どもの『どうして?』がたくさん生まれるだろう」と、現在と昔の地図を比較する活動を計画しました。

30 年前の住宅地図と出会った K さんは、「家が無い。学校が無い。畑ばかり」と、現在と昔の違いに気付いていました。しばらく、あれがないこれがないと、友だちと語り合いながら地図を見入っていた K さんは、突然、学習カードに「学校の前にある道は、今も昔もある」と、メモし始めました。

比較する活動の中で K さんは、「相違点」だけでなく、「共通点」があることにも気付き、そのことに疑問を感じたようです。

先生から発表するよう促されると、K さんは、「この道は今もあるけど、昔もあったから、どうしてなのかもっと知りたい」と語っていました。K さんの探究的な学びがスタートした瞬間でした。



「学校の働き方改革」の今

< 全国の学校における働き方改革事例集 令和 3 年 3 月文部科学省 >

保護者対応

1. 連絡帳での保護者とのやりとり

問い合わせをメール・Web アンケートで受付
p.58 削減時間 43.0 時間

雛形の簡素化
p.59 削減時間 21.5 時間

学級通信などの
オンライン配布
p.59 削減時間 21.5 時間

2. 保護者向けの連絡

メール連絡へ統一
p.60 削減時間 43.0 時間

発行回数の見直し
p.60 削減時間 21.5 時間

重複していた記載
事項の一本化・
通信の統合
p.60 削減時間 43.0 時間

3. 個人面談・家庭訪問

家庭訪問を
個人面談へ転換
p.61 削減時間 25.0 時間

個人面談・
家庭訪問の
オンライン化
p.62 削減時間 7.5 時間

下見の
取りやめ
p.62 削減時間 2.0 時間

面談調整の
オンライン化
p.63 削減時間 1.0 時間

4. 保護者向け集会、PTA の活動

PTA 活動の見直し
p.64 削減時間 53.8 時間

委任状・承認の
Web アンケート
・書面化
p.65 削減時間 3.0 時間

オンライン会議・
動画配信での実施
p.64 削減時間 3.0 時間

全国の学校から集めた、どの学校でも実現できそうな取組について、分野ごとに削減目安時間とともに記されています。また、GIGAスクール構想に伴い、ICT環境を通じた校務効率化の事例や新型コロナウイルス感染症対策の結果として見直された内容も多く紹介されています。こうした取組の成果をこちらからご覧いただくことができます。



信州型コミュニティスクール

北信地区活動だより

NO. 18 (令和3年7月) 北信教育事務所生涯学習課 文責：指導主事 岡田 絵美

地域の皆さんにとって、学校はどのような場所でしょうか。コロナ禍の今、以前のように気軽にお越しいただくことが難しい時期かもしれませんが、そんな中でも「畑」や「花壇」を、地域の皆様と子ども達との交流や学びの場としている学校が増えてきています。

山王小



「子ども達の為になる+自分達も楽しい ～無理せず続ける『花いっぱい』の活動～」

長野市立山王小学校は、校舎内に花が飾られ、中庭にはベンチが整備されています。これらは地域ボランティアの活動で整えられたものです。

始まりは3年前。当時、手入れが充分に行き届いていない中庭を見た、卒業生でもある保護者の方が、中庭を子ども達が遊べる場所にしたい、と始めたのが「花いっぱい」の活動です。最初は3人でスタートし、中庭の掃除から始めた活動も、今では口コミでメンバーが増え、校舎内を飾る花を生けたり、中庭の整備をしたりすることを通して、環境整備を行っています。

Ⅱ 「活動を続けるコツは、自分達自身が楽しむことです」



活動は、毎週月曜日の10時からです。活動の時には、ボランティアの目印でもある、オレンジ色のベストを着用します。このベストのおかげで、子ども達にもボランティア活動をしていることが伝わります。

また、活動にあたっては「できる人が、できる時だけ」ということを大切にされているそうです。気軽に集ったメンバーの皆さんで、楽しみながら、校内に飾る花を生けていきます。

みんなで花を生ける時間は、まるでミニ華道教室です。この時間が自分達の学びにもなっていて、楽しい時間です。



ベンチやレンガ道が整備された中庭



メンバーの発案で、児童玄関に「山王小のどこにある？○○」という花紹介の掲示を行っています。子ども達が花に興味をもつきっかけになっています。



【ボランティアさんの声】

子ども達が、「ありがとうございます」「何かやることありますか」と声をかけてくれます。また、お花がある環境を提供できていること、その中で子ども達が遊んでいることが、すごく嬉しいです。この活動を始めて良かった！



仁礼小



「一緒に楽しむ、花壇づくり～地域の方は先生～」

須坂市立仁礼小学校では、例年花壇づくりを行っていますが、児童数の減少や、児童会活動の回数が減ったことに伴い、負担が増しているという課題がありました。そこで、今年度最初の学校運営委員会で「地域の皆さんと一緒に花壇づくりをしていただけませんか？そして、子ども達とも交流しませんか」と相談をしました。その後、関わってくださる方を募り、今年度から地域の皆さんと一緒に作る学校花壇の活動が始まりました。

【活動の様子から】



顔合わせでは、地域の方の自己紹介の後、担任の先生が「お住まいの地区はどこですか？」と質問していました。「〇〇地区です」と答えると、子ども達が「同じ地区だ」「イエーイ！」「会ったことあるかも」と嬉しそうに反応しており、一気に親近感が増した様子が見られました。

その後始まった作業では、地域の方が子ども達の名前を呼びながら作業されていたので、少しお話をお聞きました。

【地域の方の声】

これまで、普段は子ども達と交流することはなかったけれど、これをきっかけに交流の機会が増えるといいと思っています。今日は、一人でも名前を覚えようと思って来ました。



子ども達も「〇〇さん、これでいいですか」等と名前を呼びながら作業をしていましたが、次第に「〇〇先生」と呼び方が変わっていったのが印象的でした。子ども達にとって、寄り添いながら一緒に作業し、どうすれば良いのかを優しく教えてくれる地域の方が、自分たちの先生なんだと自然に感じた、だから先生と呼びたくなった、そんな姿に思えました。

仁礼小学校では、これからも継続的に地域の方が花壇の活動に関わってくださるそうです。



ポイント

「花壇や畑を、地域の方にとっての居場所の一つに」



・花壇や畑などは、地域の方にとって訪れやすく、草取りや花の手入れなどを通して、継続的に学校に関わっていただける場所です。ここでは、地域の方に様々な場面で子ども達と交流していただくことはもちろん、その他にも、気軽に集うことで、地域の方同士がヨコのつながりを広げたり、ボランティアに関わっていきたいと思う方が増えていったりすることが期待されます。

・理科や生活科等、学習内容に応じて、子ども達の学習の場と意図的に重ねることで、地域の方から教わったり、共に活動していただいたりしながら学習を進めることも可能です。

地域とともにある学校づくりの充実に向けて、学校や地域に出向いての信州型CSの基礎研修や実践事例の紹介などをします。お気軽に連絡していただけたらと思います。

■■お問い合わせ先■■

北信教育事務所生涯学習課 〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1 担当：岡田
Tel：026-234-9552 E-mail：hokushinkyo@pref.nagano.lg.jp

地域と共にある学校づくり

信州型コミュニティスクール

北信地区活動だより

NO. 19 (令和3年8月) 北信教育事務所生涯学習課 文責：指導主事 岡田 絵美

コミュニティスクールの活動を充実させるために「熟議」を取り入れて、願いや目的を共有しようとする学校が増えてきています。19号では、夏休みを利用して行われた熟議の様子についてご紹介します。

八幡小



「地域の方と、学校職員が語り合う子ども達の姿～公民館での熟議～」

千曲市立八幡小学校では、学校、家庭、地域が連携を密にして、子ども達の健やかな成長を支えることを目的とした「八幡っ子支援委員会」が組織されています。学校運営についての意見交換や、年間を通した見守りボランティアやお掃除ボランティア等が行われています。また、近くにある公民館と連携して、しめ縄教室や書き初め教室も行われています。

■「多くの先生方も参加できる夏休み中の開催」

今回は、初めての熟議の試みとして、夏休み中に公民館で行われました。日頃、学校運営委員会等の多くの会議は学校が企画をして、学校で行うことが多いのですが今回は、八幡っ子支援委員会委員長さんが中心となって共に企画し、公民館で開催することとしました。通常の学校運営委員会では、担任の先生方が参加する機会はあまりありませんが、夏休み中に設定したことにより、多くの先生方と地域の皆さんとが顔を合わせてお話する機会となりました。

【八幡小 八幡っ子支援委員会の次第】

- 1 開会の言葉 (教頭)
- 2 挨拶 (運営委員長・学校長)
- 3 協議
 - ①「八幡っ子委員会」規約について (運営委員長)
 - ②活動報告と本年度の事業計画について (教頭)
 - ③八幡小学校児童の様子について (各学年主任・生活指導係)
- 4 千曲型コミュニティスクールについて (市教育委員会)

※1～4までで、約45分
- 5 熟議「八幡っ子について」… 約40分

各グループからの発表 … 約5分
- 6 挨拶 (学校長)
- 7 終わりの言葉

※約1時間30分

八幡っ子支援委員会 委員の皆様



共同での企画・準備と
連名での通知発出

八幡っ子支援委員会 委員長 岡崎 孝治
八幡小学校長 宮坂久美子

八幡の子どもについて語り合いました

(八幡っ子支援委員会)

梅雨の候、地域・PTAの皆様方にはますますご清栄にてお過ごしのことと拝察申し上げます。また、日ごろより八幡の子どもたちの教育のためにご協力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、八幡っ子支援委員会を下記のような新しい形で開催することとしました。八幡小の子どもについて、地域の皆様、保護者様、学校が顔を合わせて語り合いたいと思います。ご都合をつけ、ご出席くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

1 日時 令和3年7月27日(火) 午後3時～4時30分

2 場所 八幡公民館 2階大会議室

3 内容

- (1)今年度の八幡っ子支援委員会について説明します。
- (2)学校から八幡小の子どもたちの様子についてお話します。
- (3)八幡小の子どもについて語り合います。
 - ①区ごとにグループになってざっくばらんに語り合います。
 - ②メンバーは、区長さん、八幡っ子支援委員会のメンバーさん、PTAの支部長さん、学校の支部担当職員です。
 - ③それぞれの区ごとの話し合いで出された内容をみんなで共有します。
- (4)学校長あいさつ



・八幡の子どもたちに期待することは・・・
・地域の方を子どもたちのために生かしていくには・・・
・子どもたちにもっと、ふるさとや地域を知ってもらうには・・・
・昔の子どもたちと今の子どもたちの違いは・・・
・子どもたちの安全をみんなで守るには・・・ など

話す内容の例示

4 その他

・欠席される場合は、7月20日までに、担当までご連絡ください。

【事前に出された案内通知】

【校長先生の挨拶より】

今日は、八幡小の子ども達について語り合う初めての試みです。いつもは地域の方に学校へ来ていただいておりますが、今日は職員が地域に出きました。職員にとっても地域の方と顔を合わせて語る良い機会です。ぜひ最後は皆さんに笑顔で帰って欲しいと思います。



今回の熟議では、地区ごとに5グループに分けられました。一つのグループの人数は7人～9人、地区担当の学校職員が2名ずつ入り、記録と発表役を担いました。

【実際の熟議の様子から】

子ども達、特に低学年はカバンが重くて大変そうなんだけど…。

カバンが重いせいもあって下級生は歩くのが遅くなるけど、上級生はそれを分かっている見守ってくれているみたいです。「お互いさま」という感じで、1年間かけて分かってくる、それでいいと思います。うちの子も、毎日ががんばってます。

カバンの重さはデメリットと思っていたけれど、皆さんのお話を聞いて、思いやりや体力向上の面で良さもあると分かりました。



徐々に雰囲気がほぐれてくる中で、課題に感じていることや、子ども達の育ちの様子が語られていました。熟議の最後には、各グループで話し合われたことが発表され、共通理解を図ることが大切にされていました。

【熟議に参加した先生の感想】

八幡のことを知っていると思っていましたが、地域の方と話をして、まだまだ知らないことがあるのだと分かりました。これからも、もっと地域と繋がっていききたいと思います。



【運営委員長さんの感想】

先生と地域で、思いを共有するきっかけとして、まず1回目の熟議ができて良かったです。まだまだ試行錯誤していますし、手探りですが、こういうことを今後につなげていくことが大切だと思っています。



「熟議を取り入れてみませんか～熟議企画のポイント～」



熟議は目的とやり方が決まれば、手軽に取り入れることができます。また、熟議に要する時間は説明や振り返りを含めて、1時間程度から可能です。熟議を行う機会を増やし、語り合うことを通して願いを共有し、コミュニティスクールを充実させていくことが求められています。

以下のポイントを参考にしながら、熟議を企画してみませんか。

【熟議企画のポイント】

①熟議の目的は？（何を願うのか）…コミュニティスクール推進上の課題から考えてみましょう

例）・運営委員会で意見が出ない、活性化したい

→ざっくばらんに話をするを通して、気軽に話し合えるような関係構築のきっかけにする

・コミュニティスクールの目的がはっきりせず、やらされ感がある

→何のための活動なのか、子ども達の育ちについて語り目的を共有する

・コミュニティスクールについて理解が足りない

→研修的な内容+それを元に、どのように取り入れられるかを話し合い、活動につなげる

②どんな場で実施し、誰が参加するのか…学校運営委員会、土曜参観日、地区懇談会など

③熟議の前→説明や情報提供 熟議の後→共通理解やまとめ をどのようにするのか



「熟議」を取り入れたい学校を支援します～指導主事がお伺いします～

地域とともにある学校づくりの充実に向けて、学校や地域に出向いての信州型CSの基礎研修や実践事例の紹介などをします。お気軽に連絡していただけたらと思います。

■■お問い合わせ先■■

北信教育事務所生涯学習課 〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1 担当：岡田
Tel：026-234-9552 E-mail：hokushinkyo@pref.nagano.lg.jp